

## 令和5年度第1回ワークショップ「TNGR（つながる）」実施結果について

### 1 ワークショップの目的

- (1) 「奥州市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の推進にあたり、市の将来を担う世代や地域の協働の新たな担い手の視点により、まちづくりに対する課題を抽出し、参考とすること
- (2) 新たな『つながる』枠組みとして「市×協働のまちづくりアカデミー修了生×地方創生推進包括連携協定締結企業」のきっかけとすること
- (3) ワークショップで出されたアイデアにおいて実現が期待できるものについては、市担当課、関係団体等の出席による意見交換、協議の場の設定により、具現化を検討するとともに、参加者自らが事業に参画する体制づくりの構築も視野に入れること

### 2 開催日時

令和5年8月17日（木）午後1時30分から午後4時30分まで

### 3 開催場所

奥州市水沢地区センター会議室

### 4 参加者の状況

#### (1) ワークショップ参加者

区分	人数
地方創生の推進に関する包括連携協定締結企業、地域循環社会の推進に関する連携協定締結企業	11名
奥州市協働のまちづくりアカデミーの修了生	5名
市職員	3名
計	19名

※ 当日は、参加予定者のうち3名（企業：1名、奥州市協働のまちづくりアカデミーの修了生：2名）が欠席。

#### (2) 専任アドバイザー

特定非営利活動法人まちサポ零石 理事長 櫻田七海氏

### 5 当日のプログラム

- (1) 開会
- (2) オリエンテーション
  - ① 令和4年度ワークショップの振り返り
  - ② 令和5年度ワークショップ「TNGR（つながる）」実施内容の説明
- (3) ワークショップ
  - ① 説明
  - ② 自己紹介
  - ③ ファシリテーター等の決定
  - ④ TNGR実践事業の実施について
  - ⑤ 班における役割分担の決定、今後の進め方の確認
- (4) 発表  
グループごとに検討した内容を発表

- (5) 講評  
専任アドバイザーからの発表内容に対する講評
- (6) 事務連絡
- (7) 閉会

## 6 第1回ワークショップの実施状況（概要）

### (1) オリエンテーション

令和4年度のワークショップで検討した事業化のアイデアについて振り返りを行うとともに、令和5年度においては、TNGR（つながる）実践事業として、班ごとに事業の具体化に取り組んでいくことを説明した。

### (2) ワークショップ

TNGR（つながる）実践事業の実施に当たり、事業アイデアの確認、現状に沿った事業案、実施スケジュールを検討するとともに、班における役割分担の決定、今後の進め方の確認を行った。

各班が検討した内容は次のとおり。

<b>1 班</b>
<b>【班の構成】</b> 6名（企業：3、アカデミー：2、市職員：1）
<b>【市の担当課】</b> 協働まちづくり部地域づくり推進課地域支援室（副主幹 千 田 尚 子）
<b>【ワークショップでの検討内容】</b> 1 TNGR実践事業の実施について (1) 事業アイディアの確認 ① 事業名 奥州市の魅力を知ろうウルトラクイズ大会～入浴（にゅーよーく）～行き たいか！？～ ② 目的 クイズを通じて地元のことを知る機会とする。 かるた作成を通じて、地元を知る機会とする。※実施しない ③ ○×クイズの作成について 博物館（牛の博物館等）や地元の産業等（南部鉄器、農業、社会福祉協議 会等）に関連したクイズを出題する。クイズの作成は、市内の施設や業者に 依頼する。 ④ 事業実施日 10月14日（土）、15日（日）に開催されるJA岩手ふるさとまつりの事業の 中で実施する（JA岩手ふるさととの職員の下承あり）。 ⑤ 表彰及び賞品について 一般の部と小学生以下の部門別とする。賞品は1等を温泉の宿泊券、参加 賞も考えている。 2 班における役割分担の決定、今後の進め方の確認 (1) 役割分担 班長：佐藤 剛太、記録係：松村 瑠維、連絡係：小野寺 海舟、会計係： 長 あすみ (2) 今後の進め方の確認 準備期間が短いことから、早急に補助金申請を行い、今後少なくとも2回は 集まり、事業実施に向けて検討を加えることとした。JA岩手ふるさとへは、 企画書を提出することとし、高額な賞品の提供、参加賞を配布することで、J A岩手ふるさとまつりの開催に影響を与えないような配慮も必要と思われる。



<b>2班</b>
<p><b>【班の構成】</b> 4名（企業：4、アカデミー：0、市職員：0）</p>
<p><b>【市の担当課】</b> 農林部農政課食農連携推進室（室長補佐 千葉 和幸） 政策企画部未来羅針盤課（課長補佐 千田 大介）</p>
<p><b>【ワークショップでの検討内容】</b></p> <p>1 TNGR実践事業の実施について</p> <p>(1) 事業アイデアの確認</p> <p>① 課題</p> <p>ア ご飯を販売する場合は、臨時営業許可が必要となる。</p> <p>イ JA岩手ふるさとのイベントに合わせて実施すると、広く場所を確保できない。</p> <p>ウ 「銀河のしずく」は、奥州市内で栽培していない。</p> <p>② 事業案</p> <p>ア 「金色の風」と「ひとめぼれ」の食べ比べができる、地元食材を使った「野菜カレー」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実施時期は11月（新米を食べてもらう）…新米の購入拡大につなげる。</li> <li>・ 産直来夢くん内の「レストランおかわりらいむくん」のメニューで出す。</li> <li>・ 食べた方にアンケートを実施し、事業評価に活用する。</li> <li>・ 将来は、市内飲食店で「(仮) 奥州カレー」として実施してもらうキックカケとしたい。</li> <li>・ 市内の高校生が、事業に参加してもらえる内容を検討する。</li> <li>・ JA岩手ふるさととして、実施期間内に農業に関するパネル展示を行うことは可能。</li> </ul> <p>2 班における役割分担の決定、今後の進め方の確認</p> <p>(1) 役割分担</p> <p>班長：小野寺 翔、広報係：小野寺 春那、会計係：高橋 瑞貴</p> <p>(2) 今後の進め方の確認</p> <p>① 班員、市担当課職員、JA岩手ふるさと（細目氏）とLINEグループを作り、連絡体制を整えた。</p> <p>② 事業スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8月中：JA岩手ふるさとの担当と食農連携推進室で企画案を作成する。また、事業の見積りを行う。</li> <li>・ 9月：市内の高校生に協力を得られるか相談をする。 （POP作成やメニュー開発等（食べ比べのご飯が見分けられる工夫が必要））</li> <li>・ 10月：事業の周知をする、班員及び3班で協力して行う（チラシ作成は市の予算を使う）。アンケートの質問項目を検討する。</li> <li>・ 11月：事業実施（実施期間は後日決定）</li> </ul>

- 12 月：アンケート結果を集計する。
- 2 月：第2回ワークショップTNGR



<b>3班</b>
<p><b>【班の構成】</b> 6名（企業：2、アカデミー：3、市職員：1）</p>
<p><b>【市の担当課】</b> 協働まちづくり部地域づくり推進課（課長補佐 佐々木 光 男） 政策企画部政策企画課（主任 佐藤 堯） 政策企画部未来羅針盤課（係長 佐々木 聖）</p>
<p><b>【ワークショップでの検討内容】</b></p> <p>1 TNGR実践事業の実施について</p> <p>(1) 事業アイデアの確認</p> <p>① インスタグラムによる情報発信に取り組む（他の班のイベントの画像をアップしてもらうことで特産品が当たるなどのキャンペーンの実施等）。</p> <p>② 「事業化に向けたアイデア出し」と「誰が」実施するかという部分は昨年度のとおりであるので、「他の班と連携を行ううえでの費用負担のありかた」、「独自の企画に取り組む場合のスキームの構築」、「宣伝の方法」などの「どのように」を深掘りしたい。</p> <p>③ 3班が取り組む事業の内容は、「他の班が行う事業のPR」と「フォトコンテスト」で検討してみる。</p> <p>④ 事業を進めるうえで、投稿数、フォロワー数等の成果目標となる目標数値を設定することを検討する。</p> <p>2 班における役割分担の決定、今後の進め方の確認</p> <p>(1) 役割分担 班長：宗村 和輝、副班長：吉田 知佳、記録係：千葉 浩之、連絡係：千葉 奈美、会計係：小野 優</p> <p>(2) 今後の進め方の確認</p> <p>① 3班全員と各班の広報係を含めたLINEグループを作り、連絡体制を整えた。</p>



<b>4 班</b>
<b>【班の構成】</b> 6名（企業：3、アカデミー：2、市職員：1）
<b>【市の担当課】</b> 政策企画部政策企画課（係長 齋藤 輝彦） 政策企画部未来羅針盤課（課長補佐 千田 大介）
<b>【ワークショップでの検討内容】</b> 1 TNGR実践事業の実施について (1) 事業アイデアの確認 ① 事業目的は「地元へ戻ってきたいと思ってもらうことに繋げる」であることから、ツアーの対象者は、小中学校や親子とはせず、市内高校生に絞り込む。探求学習の一環としての実施が可能かどうか、実施の最適な時期について、政策企画課にて高校と確認する。 ② ワークショップにファームステーションの村上マネージャーにも加わっていただき、地域循環型社会の取組と、過去に会社で実施したツアーの内容を紹介いただいた。 ③ ファームステーション村上マネージャーとも確認し、コースには、奥州ラボの見学、まっちゃんたまごの養鶏場を入れることで調整。SDGs、地域循環型社会について学ぶ場を設定する。 ④ 正法寺での精進料理と座禅体験、JAのカントリーエレベーターなど、地域の魅力を発見する内容をコースに入れる方向で検討する。 ⑤ 及源鋳造での工場見学と南部鉄器を使った料理体験など、伝統工芸を学び、触れる内容をコースに入れる方向で検討する。 ⑥ コースは朝（9：00頃）から夕方（16：00頃）までとして、1日かけて巡るツアーとする。コースイメージとしては、午前がファームステーション（ラボと養鶏場）、お昼が正法寺（精進料理と座禅体験）、午後が及源鋳造（工場見学と料理体験（軽食））、カントリーエレベーターの見学。今後、詳細を検討する。 2 班における役割分担の決定、今後の進め方の確認 (1) 役割分担 班長：前川 泰喜、連絡係：浦川 惟歩貴、会計係：菊地 珠美 (2) 今後の進め方の確認 差し当たり、前川班長が、事業企画書案を作成。政策企画課での高校への確認結果なども持ち寄り、平日夜に打合せの場を設ける。ファームステーションの村上マネージャーにも出席をお願いする。



## 7 専任アドバイザーからの講評

本日は、班ごとに事業を具体化するとともに、役割分担まで決めることができた。

それぞれの班において、市の広報担当、やワークショップ「TNGR（つながる）」の3班に対し、市民への周知の協力を求めたいといったことを検討しているのが共通していた。

1班では、奥州市の魅力を知るためのクイズを、市民や市内の企業に対して募集。2班は、実施したイベントについてのアンケート、高校生への事業協力の依頼。3班は、企業や個人、SNSを通じて、広報してくれる人を募集。4班は、イベントの参加者をさらに募集していくといった事業を検討している。共通しているのは、たくさんの人を巻き込んでいくということ。

地域において復活できたお祭、花火大会といったイベントは、65歳以上の地域の重鎮が担って実施していることが多いが、そういった方の役割がとて大きく、不在となってしまうと事業が実施できないということもある。

今後、イベントを進めていくうえでのコツとして、「ちょっとずつ負担がない程度に、全員が役割を持つ」というのを心掛けてほしい。

この場にはいない市民のみなさんにも、少しでもいいので関わってもらえるよう周知を試みるのも検討してはいかがか。

他の班の事業に参加してみたいなど、「やりたいことを一所懸命にやる」という考えでTNGR（つながる）実践事業に取り組んでほしい。

## 8 今後の予定

令和6年2月下旬頃に、第2回ワークショップTNGR（つながる）を開催し、TNGR（つながる）実践事業の振り返りを行う予定。